

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 18 年 7 月 6 日 (2006.7.6)

【公開番号】特開 2006-75624 (P2006-75624A)  
 【公開日】平成 18 年 3 月 23 日 (2006.3.23)  
 【年通号数】公開・登録公報 2006-012  
 【出願番号】特願 2005-347202 (P2005-347202)  
 【国際特許分類】

**A 6 3 F 7/02 (2006.01)**

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】  
 【提出日】平成 18 年 5 月 10 日 (2006.5.10)  
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

回路基板と、

ボックススペースとボックスカバーとを有して内部に前記回路基板が設けられる基板ボックスと、

前記ボックススペースまたはボックスカバーの一方に配設される第 1 封印部と、

前記ボックススペースまたはボックスカバーの他方に配設される第 2 封印部と、

その第 1 封印部と第 2 封印部とを連結する連結封印部材とを有し、その連結封印部材によって前記第 1 封印部と第 2 封印部とが連結されている場合に前記回路基板を取り出すときには基板ボックスを破壊するか或いは所定の部位を切断することを必要とする封印手段を備えた遊技機において、

前記封印手段は、前記連結封印部材を前記第 1 封印部から前記第 2 封印部に向けて所定量挿入することで係合位置に到達し、前記第 2 封印部と前記連結封印部材が係合することで前記第 1 封印部と前記第 2 封印部が連結されると共に、前記挿入方向とは逆の方向への前記連結封印部材の移動を阻止するものであり、

前記第 2 封印部を前記基板ボックスとは別の部材により形成したことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記基板ボックス又は第 2 封印部の一方には被挟込み部が設けられ、前記基板ボックス又は第 2 封印部の他方には、前記被挟込み部を挟込むための挟込み部が設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の遊技機。

【請求項 3】

前記第 1 封印部および第 2 封印部を複数隣接して設け、該複数の第 2 封印部は、前記基板ボックスに取り付けられる取付部材と一体に形成されており、

前記基板ボックス又は取付部材の一方には被挟込み部が設けられ、前記基板ボックス又は取付部材の他方には、前記被挟込み部を挟込むための挟込み部が設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】遊技機

【技術分野】

【0001】

本発明はパチンコ機やスロットマシン等の遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

近年、パチンコ機およびスロットマシン等の遊技機は、遊技盤に設けられる入賞装置および表示装置等を制御して遊技の興趣を盛り上げるものが主流となっている。この入賞装置および表示装置の制御はＩＣ、ＬＳＩ等の多数の電子部品を配設したロジック制御回路基板またはマイクロコンピュータを有する制御回路基板等により行われる。これらの制御回路基板は、遊技盤の裏面に配設される入賞球集合カバーまたは機構板に取り付けられる遊技機用基板ボックス内に収納されて遊技機に付設されている。この遊技機用基板ボックスは制御回路基板を被包して収納するためのボックススペースとボックスカバーとを備えている。

【0003】

ところで、かかる遊技用基板ボックス内に収納された制御回路基板から遊技内容に関する制御情報が記憶されたＲＯＭを取り外し交換して、遊技機の遊技内容を変更する不正行為が近年問題になっている。このような不正行為の防止対策として、遊技機用基板ボックス内からＲＯＭを取り外すことができないように遊技機用基板ボックスのボックススペースとボックスカバーとを封印ねじ等の特殊ねじを用いて接合し、遊技機用基板ボックスを封印する方法が用いられている。

【0004】

例えば、この封印ねじは、スクリュードライバ等のねじ回し工具が締め付け方向（ねじ込み方向）にのみ係合される十字溝をねじ頭部に形成したものであり、ねじを緩める方向にねじ回し工具を回転させると、ねじ回し工具が空回りすることにより外すことができない特殊ねじである。よって、この封印ねじを用いて遊技機用基板ボックスのボックススペースおよびボックスカバーを接合した場合、遊技機用基板ボックスを容易に開封することができないので、遊技機用基板ボックス内の制御回路基板から遊技内容に関する制御情報の記憶されたＲＯＭを取り外して交換するという不正行為が防止される。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

【0006】

【0007】

本発明は、基板ボックスを確実に封印して、遊技内容を変更する不正行為を防止し、一方、かかる不正行為が行われた場合には、その不正行為を早期に発見することができる遊技機を提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0008】

この目的を達成するために請求項１記載の遊技機は、回路基板と、ボックススペースとボックスカバーとを有して内部に前記回路基板が設けられる基板ボックスと、前記ボックススペースまたはボックスカバーの一方に配設される第１封印部と、前記ボックススペースまたはボックスカバーの他方に配設される第２封印部と、その第１封印部と第２封印部とを連結する連結封印部材とを有し、その連結封印部材によって前記第１封印部と第２封印部とが連結されている場合に前記回路基板を取り出すときには基板ボックスを破壊するか或いは所定の部位を切断することを必要とする封印手段を備えており、前記封印手段は、前記

連結封印部材を前記第 1 封印部から前記第 2 封印部に向けて所定量挿入することで係合位置に到達し、前記第 2 封印部と前記連結封印部材が係合することで前記第 1 封印部と前記第 2 封印部が連結されると共に、前記挿入方向とは逆の方向への前記連結封印部材の移動を阻止するものであり、前記第 2 封印部を前記基板ボックスとは別の部材により形成したものである。

【 0 0 0 9 】

請求項 2 記載の遊技機は、請求項 1 記載の遊技機において、前記基板ボックス又は第 2 封印部の一方には被挟込み部が設けられ、前記基板ボックス又は第 2 封印部の他方には、前記被挟込み部を挟込むための挟込み部が設けられている。

【 0 0 1 0 】

請求項 3 記載の遊技機は、請求項 1 記載の遊技機において、前記第 1 封印部および第 2 封印部を複数隣接して設け、該複数の第 2 封印部は、前記基板ボックスに取り付けられる取付部材と一体に形成されており、前記基板ボックス又は取付部材の一方には被挟込み部が設けられ、前記基板ボックス又は取付部材の他方には、前記被挟込み部を挟込むための挟込み部が設けられている。

【 0 0 1 1 】

【 0 0 1 2 】

【 0 0 1 3 】

【 0 0 1 4 】

【 0 0 1 5 】

【 発明の効果 】

【 0 0 1 6 】

本発明の遊技機によれば、封印手段は、連結封印部材を第 1 封印部から第 2 封印部に向けて所定量挿入することで係合位置に到達し、第 2 封印部と連結封印部材とが係合することで第 1 封印部と第 2 封印部とが連結されると共に、挿入方向とは逆の方向への連結封印部材の移動を阻止するので、基板ボックス内に回路基板を確実に封印することができる。従って、基板ボックスは、基板ボックスを破壊するか或いは所定の部位を切断しなければ開放できないので、遊技内容に関する制御情報が記憶された ROM を回路基板から取り外して交換し、遊技内容を変更する不正行為を防止することができるという効果がある。

【 0 0 1 7 】

また、基板ボックスが開封された場合には、その開封の痕跡を確実に残すことができるので、かかる不正行為を早期に発見することができるという効果がある。

更に、第 2 封印部は、基板ボックスとは別の部材により形成されているので、使用済みの第 2 封印部や何らかの原因で破損した第 2 封印部を、新たな第 2 封印部に取り替えて基板ボックスに取り付けることもできる。

【 0 0 1 8 】

なお、各請求項の連結封印部材には、スクリュードライバ等のねじ回し工具を係合させる係合溝ではなく、連結封印部材をねじ込み方向に回転させる場合、ねじ回し工具と係合可能となり、逆に連結封印部材を反ねじ込み方向に回転させる場合には、ねじ回し工具を空回りさせる係合溝、いわゆるワンウェイ十字溝を凹設しても良い。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 9 】

以下、本発明の好ましい実施例について、添付図面を参照して説明する。図 1 は、本発明の遊技機用基板ボックス封印具の一実施例である封印ユニット 1 を有する基板ボックス 40 の配設されたパチンコ機 50 の裏面図である。図 2 は、封印ユニット 1 の配設された基板ボックス 40 が開封された状態を示す斜視図であり、図 3 は、封印ユニット 1 を構成する各部材の分解斜視図であり、図 4 は、基板ボックス 40 を封印した状態における封印ユニット 1 の部分断面図であり、図 5 は、基板ボックス 40 の分解斜視図である。

【 0 0 2 0 】

図 1 および図 2 を参照して、封印ユニット 1 が配設される基板ボックス 40 について説

明する。まず、図 1 に示すように、基板ボックス 40 は、例えば遊技機的一种であるパチンコ機 50 の裏側に設けられた入賞球集合カバー 51 に取り付けられている。基板ボックス 40 は、パチンコ機 50 の遊技内容に関する制御情報を記憶した制御用 ROM 等の電子部品により構成された制御回路基板（図示せず）を被包するためのものであり、ボックス本体 41 と、そのボックス本体 41 に覆設されるボックス蓋体 42 とを備えている（図 2 参照）。

#### 【0021】

図 2 に示すように、ボックス本体 41 は、金属材料から構成され中空状の箱状体に形成されており、その上方はボックス本体 41 内に制御回路基板を配設するために開放されている。また、ボックス本体 41 の側壁 41a には、後述する封印ユニット 1 のユニット部材 20 が取り付けられている。更に、ボックス本体 41 の内側壁には薄板状のガイド板 43 が設けられており、ボックス本体 41 にボックス蓋体 42 を被せる場合、ボックス蓋体 42 の位置ズレを防止して、容易に被せることができる。

#### 【0022】

ボックス蓋体 42 は、ボックス本体 41 と同様に、金属製の中空箱状体に形成されており、その側壁 42a には後述する封印ユニット 1 のユニット部材 30 が取り付けられている。ボックス蓋体 42 の上部壁面には、透明な合成樹脂から構成された覗き窓 42d が設けられており、基板ボックス 40 内の制御回路基板上に設けられた制御用 ROM 等の型番号等を容易に確認することができる。このため、制御用 ROM 等を交換してパチンコ機 50 の遊技内容を変更する不正行為が行われた場合、これを容易に発見することができる。

#### 【0023】

次に、図 3 および図 4 を参照して、封印ユニット 1 を構成する各部材について説明する。図 3 に示すように、封印ユニット 1 は、基板ボックス 40 を封印するための封印ねじ 11 と、その封印ねじ 11 が螺入されるナット 12 と、封印ねじ 11 を係止するためのストッパ部材（抜け止め手段）13 と、ナット 12 およびストッパ部材 13 が配設されるとともにボックス本体 41 に配設されるユニット部材 20 と、そのユニット部材 20 に対向してボックス蓋体 42 に配設され封印ねじ 11 が係合されるユニット部材 30 とを備えている。

#### 【0024】

尚、図 1 に示すように、封印ユニット 1 は基板ボックス 40 の 2 箇所にそれぞれ配設されている。

#### 【0025】

封印ねじ 11 は、後述するユニット部材 20, 30 における各封印部材 21, 31 を連結するためのものであり、ステンレス鋼材等の金属材料から構成されている。この封印ねじ 11 は、封印部材 21 に挿設される軸部 11a と、その軸部 11a の一端に一体形成されるとともに後述する封印部材 31 に係合される頭部 11b とを備えている。

#### 【0026】

図 3 に示すように、封印ねじ 11 の軸部 11a は、先端部 11c と、おねじが螺刻されたおねじ部 11d と、おねじが螺刻されていない非おねじ部 11e とを備えている。先端部 11c は、軸部 11a の下端部に形成されており、その先端部に形成されたテーパ部 C と、後述するストッパ部材 13 に保持される係止溝 11f（図 4 参照）とを有している。図 4 に示すように、封印ねじ 11 の先端部 11c はテーパ部 C を介して後述するストッパ部材 13 の内孔 13a へ容易に挿入することができる。即ち、封印ねじ 11 の先端部 11c がストッパ部材 13 の内孔 13a に挿入されると、テーパ部 C によりストッパ部材 13 の内孔 13a が徐々に押し広げられるからである。この封印ねじ 11 の挿入を更に続けると、係止溝 11f がストッパ部材 13 により係止され、封印ねじ 11 は取り外し不可能な状態となる。

#### 【0027】

おねじ部 11d は、後述するナット 12 のめねじ部 12c と螺合可能に形成されており、非おねじ部 11e の外径は、ナット 12 のめねじ部 12c の内径より小さく形成されて

いる。よって、封印ねじ 1 1 がナット 1 2 のめねじ部 1 2 c に螺入されて基板ボックス 4 0 が封印された場合、封印ねじ 1 1 の非おねじ部 1 1 e をナット 1 2 のめねじ部 1 2 c 内に配設することができる（図 4 参照）。

【 0 0 2 8 】

頭部 1 1 b は、軸部 1 1 a と比較して外径が大きく形成されており、後述する封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a に係合可能となっている。よって、封印ねじ 1 1 の係止溝 1 1 f がストッパ部材 1 3 に係止され、その頭部 1 1 b が封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a に係合された場合、封印部材 2 1 , 3 1 は封印ねじ 1 1 により取り外し不可能な状態で連結される。その結果、基板ボックス 4 0 は開封不可能な状態にて封印される。また、頭部 1 1 b の上面には、スクリュードライバ等のねじ回し工具が係合可能な上面視略十字状の係合溝 1 1 g が凹設されている。この係合溝 1 1 g は、封印ねじ 1 1 をねじ込み方向に回転させる場合、ねじ回し工具と係合し、逆に封印ねじ 1 1 を反ねじ込み方向に回転させる場合には、ねじ回し工具を空回りさせる。よって、封印ねじ 1 1 を反ねじ込み方向に回転させることができないので、ナット 1 2 に挿設された封印ねじ 1 1 の抜き取り行為を防止することができる。

【 0 0 2 9 】

図 3 に示すように、ナット 1 2 は、封印ねじ 1 1 および後述するストッパ部材 1 3 を保持するためのものであり、後述する封印部材 2 1 に内嵌されている。このナット 1 2 は、真鍮等の金属材料から構成されており、略円柱状に形成された円筒部 1 2 a と、その円筒部 1 2 a と比較して外径が小さく形成された突部 1 2 b と、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d に螺合可能なめねじ部 1 2 c と、そのめねじ部 1 2 c に連通して穿設された保持穴 1 2 d とを備えている（図 4 参照）。円筒部 1 2 a は後述する封印部材 2 1 の嵌合穴 2 1 a に内嵌され、その外周面にはローレット切りが施されている。よって、嵌合穴 2 1 a に内嵌された円筒部 1 2 a の外周面は嵌合穴 2 1 a の内壁に引っ掛かり、ナット 1 2 は嵌合穴 2 1 a 内に確実に保持される（図 4 参照）。

【 0 0 3 0 】

図 4 に示すように、突部 1 2 b は、後述する封印部材 2 1 の嵌合穴 2 1 b に内嵌されており、その下方には後述するストッパ部材 1 3 が配置されている。めねじ部 1 2 c の内径は、封印ねじ 1 1 の非おねじ部 1 1 e の外径と比較して大きく形成されており、めねじ部 1 2 c 内に非おねじ部 1 1 e を挿設することができる。また、保持穴 1 2 d は、めねじ部 1 2 c と連通して穿設されており、その内径は封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d の外径と比較して大きく形成されている。よって、封印ねじ 1 1 がナット 1 2 のめねじ部 1 2 c に螺入されて基板ボックス 4 0 が封印された場合、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d を保持穴 1 2 d 内に挿設することができる。

【 0 0 3 1 】

図 3 および図 4 に示すように、ストッパ部材 1 3 は、封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c を後述する封印部材 2 1 内に係止するためのものであり、バネ鋼材等から構成され、上面視略 C 字形に形成された公知の C 形止め輪であり、略円形状の内孔 1 3 a を有している。このストッパ部材 1 3 は、後述する封印部材 2 1 の嵌合穴 2 1 b 内であって、ナット 1 2 の下方に配置されている。よって、ストッパ部材 1 3 の内孔 1 3 a に封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c を挿入すると、内孔 1 3 a が先端部 1 1 c のテーパ部 C を介して押し広げられ、ストッパ部材 1 3 が弾性変形する。その後、封印ねじ 1 1 が更に螺入されると、ストッパ部材 1 3 が弾性変形し内孔 1 3 a が収縮して、係止溝 1 1 f がストッパ部材 1 3 の内孔 1 3 a に係止される。

【 0 0 3 2 】

図 3 に示すように、ユニット部材 2 0 は、基板ボックス 4 0 のボックス本体 4 1 に配設され基板ボックス 4 0 を封印するためのものであり、合成樹脂材料等で形成されている。このユニット部材 2 0 は、ナット 1 2 およびストッパ部材 1 3 が配置される複数の封印部材 2 1 と、ユニット部材 2 0 をボックス本体 4 1 に取り付けるための取付部材 2 2 と、各封印部材 2 1 と取付部材 2 2 とを互いに連結するための連結部材 2 3 と、各封印部材 2 1

のそれぞれを互いに連結する連結部材 2 4 と、予備用の封印ねじ 1 1 を保持するために設けられた保持部材 2 5 とを備えている。尚、各封印部材 2 1 はそれぞれ略同一に構成されているので、以下、同一の部分には同一の番号を付してその説明は省略する。

【 0 0 3 3 】

図 4 に示すように、封印部材 2 1 は、略円柱状に形成されており、その一部には連結部材 2 3 が固着され取付部材 2 2 に連結されている。この封印部材 2 1 は、略等間隔で取付部材 2 2 に計 4 個連結されており、各封印部材 2 1 には、内径の異なる複数の同心状の嵌合穴 2 1 a , 2 1 b , 2 1 c が連通してそれぞれ形成されている。また、嵌合穴 2 1 a , 2 1 b , 2 1 c の内径はそれぞれ嵌合穴 2 1 a , 2 1 b , 2 1 c の順に大きくされている（図 2 参照）。嵌合穴 2 1 a は、封印部材 2 1 の上面に形成されており、ナット 1 2 の円筒部 1 2 a が内嵌可能に形成されている。この嵌合穴 2 1 a の深さ、即ち、封印部材 2 1 の上面から嵌合穴 2 1 a の底面までの長さはナット 1 2 の円筒部 1 2 a の長さと略同一に形成されている。よって、嵌合穴 2 1 a に内嵌されたナット 1 2 の上端部が封印部材 2 1 の上面から突出することを防止することができる。従って、後述するユニット部材 3 0 の封印部材 3 1 の下面を封印部材 2 1 の上面に当接して配置することができる。

【 0 0 3 4 】

嵌合穴 2 1 b は、嵌合穴 2 1 a に連通して形成されており、ナット 1 2 の突部 1 2 b が内嵌可能に形成されている。この嵌合穴 2 1 b の深さ、即ち、嵌合穴 2 1 a の底面から嵌合穴 2 1 b の底面までの長さは、ナット 1 2 の突部 1 2 b の長さと比較して大きく形成されており、突部 1 2 b の下面と嵌合穴 2 1 b の底面との間にはストッパ部材 1 3 を保持する空間が形成されている。よって、ストッパ部材 1 3 は、封印部材 2 1 の嵌合穴 2 1 b 内において、ナット 1 2 の突部 1 2 b 下面に押さえ付けられることなく、容易に弾性変形することができる。

【 0 0 3 5 】

嵌合穴 2 1 c は、嵌合穴 2 1 b に連通して形成されており、封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c が内嵌可能に形成されている。この嵌合穴 2 1 c の深さ、即ち、嵌合穴 2 1 b の底面から嵌合穴 2 1 c の底面までの長さは、封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c の長さと比較して大きく形成されており、嵌合穴 2 1 c の底面に封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c 下面を当接させてしまうことがない。

【 0 0 3 6 】

また、各封印部材 2 1 の外周面には、「 1 」から「 4 」までの番号表示 K がそれぞれ表示されている。この各番号表示 K は、例えば、「 1 」から「 4 」の数字を印刷した合成樹脂等のシート等を各封印部材 2 1 に貼付等したり、また、「 1 」から「 4 」の数字を各封印部材 2 1 に直接刻印したものであり、各一对の封印部材 2 1 , 3 1 が封印される順番を表している。よって、各封印部材 2 1 とそれに対向する各封印部材 3 1 とを「 1 」から「 4 」の各番号表示 K の順に封印ねじ 1 1 を用いて封印するとともに、「 1 」から「 4 」の番号表示 K の順に封印された一对の封印部材 2 1 , 3 1 をニッパ等の工具を用いて切断して除去することができる。また、この番号表示 K は基板ボックス 4 0 に配設された各封印ユニット 1 におけるユニット部材 2 0 の各封印部材 2 1 に表示されている。

【 0 0 3 7 】

尚、この各番号表示 K は、各封印部材 3 1 に表示したり、また、一对の封印部材 2 1 , 3 1 の双方に同一の番号表示 K を表示しても良い。

【 0 0 3 8 】

取付部材 2 2 は、封印ユニット 1 のユニット部材 2 0 をボックス本体 4 1 に取り付けるためのものであり、対向して配設された一对の板状体 2 2 a , 2 2 b と、その一对の板状体 2 2 a , 2 2 b を互いに連結する複数の連結部材 2 2 c と、板状体 2 2 b に配設された補強部材 2 2 d とを備えている。各板状体 2 2 a , 2 2 b は複数の連結部材 2 2 c により連結されており、この複数の連結部材 2 2 c は計 4 箇所配設されている。この各連結部材 2 2 c は、板状体 2 2 a の長手方向に略等間隔で配設された後述する複数の連結部材 2 3 に対応して配設されている。よって、取付部材 2 2 のうち、連結部材 2 3 が固着され

ている部分の厚みは大きく形成され、その強度は強化されている。従って、連結部材 2 3 を切断して封印部材 2 1 を除去する場合、取付部材 2 2 の板状体 2 2 a , 2 2 b に損傷を与えることなく連結部材 2 3 を切断することができる。また、取付部材 2 2 における一对の板状体 2 2 a , 2 2 b の間には所定幅の間隙 W 1 が形成されており、この一对の板状体 2 2 a , 2 2 b の間に形成された間隙 W 1 は、ボックス本体 4 1 の側壁 4 1 a の板厚より大きく形成されている。

【 0 0 3 9 】

図 5 に示すように、ボックス本体 4 1 の側壁 4 1 a には、取付部材 2 2 の各連結部材 2 2 c に対応した略矩形状の係合溝 4 1 b が略等間隔で計 4 箇所形成されている。この各係合溝 4 1 b には、各連結部材 2 2 c をそれぞれ係合させることができる。かかる係合により、ボックス本体 4 1 の側壁 4 1 a はユニット部材 2 0 の取付部材 2 2 における板状体 2 2 a , 2 2 b の間に挟み込まれ、図 2 に示すように、ユニット部材 2 0 がボックス本体 4 1 に取り付けられる。その結果、板状体 2 2 a , 2 2 b の間に挟み込まれた側壁 4 1 a 部分の剛性を向上させることができるとともに、ボックス本体 4 1 の側壁 4 1 a に取り付けられたユニット部材 2 0 を外れ難くすることができる。

【 0 0 4 0 】

また、取付部材 2 2 の長手方向の両端部分には一对の取付孔 2 2 e が板状体 2 2 a , 2 2 b のそれぞれを貫通して穿設している（図 3 および図 4 参照）。ボックス本体 4 1 の側壁 4 1 a には、この取付部材 2 2 の一对の取付孔 2 2 e に対応して、一对の係合穴 4 1 c が穿設されている（図 5 参照）。よって、ユニット部材 2 0 の板状体 2 2 a , 2 2 b の間にボックス本体 4 1 の側壁 4 1 a を挟み込みつつ、ユニット部材 2 0 の取付部材 2 2 をボックス本体 4 1 の側壁 4 1 a に「かしめ」またはネジ止めにより固定することができる（図 2 参照）。

【 0 0 4 1 】

補強部材 2 2 d は、封印ユニット 1 が配設された基板ボックス 4 0 の強度を補強するためのものであり、取付部材 2 2 の板状体 2 2 b における上部側面に一体に形成されている（図 4 中右側）。この補強部材 2 2 d は、後述するユニット部材 3 0 に形成された嵌合穴 3 2 d に嵌合可能な板状体で構成されており（図 3 参照）、かかる嵌合穴 3 2 d に嵌合することにより、ユニット部材 2 0 , 3 0 を互いに位置決めしつつ、封印ユニット 1 の配設された基板ボックス 4 0 の強度を補強することができる。

【 0 0 4 2 】

図 3 に示すように、連結部材 2 3 は、各封印部材 2 1 と取付部材 2 2 とをそれぞれ連結するためのものである。この連結部材 2 3 は、取付部材 2 2 の板状体 2 2 a の一側面に略等間隔で計 4 個配設されており、各連結部材 2 3 には封印部材 2 1 がそれぞれ固着されている。よって、計 4 個の各封印部材 2 1 が略等間隔で隣接して取付部材 2 2 と連結され、ユニット部材 2 0 が一体に形成されている。また、これらの隣接する各封印部材 2 1 は、連結部材 2 4 により互いに連結されて、一体に形成されている。また、封印部材 2 1 および取付部材 2 2 は連結部材 2 3 により連結されるので、封印部材 2 1 と取付部材 2 2 との間には、ニッパ等の工具の刃先が入り込むための間隔が形成される。よって、封印部材 2 1 を切断して除去する場合、ニッパ等の工具を用いて連結部材 2 3 を容易に切断することができる。

【 0 0 4 3 】

連結部材 2 4 は、隣り合う各封印部材 2 1 を連結して、ユニット部材 2 0 の強度を補強するためのものであり、略薄板状に形成されている。連結部材 2 4 は、各封印部材 2 1 の外周面のうち連結部材 2 3 の固着側の反対部分に固着されており、各封印部材 2 1 のそれぞれを互いに連結してユニット部材 2 0 の強度を補強している。また、各封印部材 2 1 の外周面のうち各封印部材 2 1 の対向面側には、それぞれ一对の保持部材 2 5 が形成されている（図 3 には各封印部材 2 1 に形成された一方の保持部材 2 5 のみを図示する）。

【 0 0 4 4 】

尚、図 3 に示すように、封印ユニット 1 の各封印部材 2 1 の間には、計 3 箇所の隙間部

分が形成される。図 2 に示すように、この隙間部分の下方から封印ねじ 1 1 と同形状の予備用封印ねじ 1 1 を挿入すると、予備用封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d が一对の保持部材 2 5 および連結部材 2 4 の上端部により掛止され、計 3 本の予備用封印ねじ 1 1 を保持することができる。

【 0 0 4 5 】

ユニット部材 3 0 は、封印ねじ 1 1 とユニット部材 2 0 とを介して、基板ボックス 4 0 を封印するためのものである。ユニット部材 3 0 は、合成樹脂材料等で形成されており、基板ボックス 4 0 のボックス蓋体 4 2 の側壁 4 2 a に取り付けられている。このユニット部材 3 0 は、封印ねじ 1 1 が係合される封印部材 3 1 と、ユニット部材 3 0 をボックス蓋体 4 2 に取り付けるための取付部材 3 2 と、各封印部材 3 1 と取付部材 3 2 とを互いに連結するための連結部材 3 3 とを備えている。尚、各封印部材 3 1 はそれぞれ略同一に構成されているので、以下、同一の部分には同一の番号を付してその説明は省略する。

【 0 0 4 6 】

図 4 に示すように、封印部材 3 1 は、略円柱状に形成されており、その一部には連結部材 3 3 が固着され取付部材 3 2 に連結されている。この封印部材 3 1 は、略等間隔で取付部材 3 2 に計 4 個連結されており、各封印部材 3 1 はユニット部材 2 0 の各封印部材 2 1 のそれぞれと対向する位置に取付部材 3 2 と一体に形成されている（図 2 参照）。また、各封印部材 3 1 は、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b と係合される係合穴 3 1 a と、その係合穴 3 1 a に連通して穿設された通穴 3 1 b とを備えている。この係合穴 3 1 a の内径は、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b の外径と比較して大きく形成されており、その深さ、即ち、封印部材 3 1 の上面から係合穴 3 1 a の底面までの長さは、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b の長さと比較して長く形成されている。よって、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b を封印部材 3 1 の上面から突出させることなく、封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a 内に係合させることができる。

【 0 0 4 7 】

通穴 3 1 b の内径は、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b の外径と比較して小さく形成されるとともに、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d の外径と比較して大きく形成されている（図 4 参照）。よって、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d を通穴 3 1 b を貫通させて、ナット 1 2 のめねじ部 1 2 c に螺合させることができる。また、封印ねじ 1 1 の係止溝 1 1 f がストッパ部材 1 3 により係止されて封印ねじ 1 1 が封印部材 2 1 内に取り外し不可能な状態で保持された場合、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b は係合穴 3 1 a 内に係合される。従って、封印部材 2 1 , 3 1 は封印ねじ 1 1 により分離不可能に連結され、基板ボックス 4 0 は開封不可能な状態で封印される。

【 0 0 4 8 】

取付部材 3 2 は、封印ユニット 1 のユニット部材 3 0 をボックス蓋体 4 2 に取り付けるためのものであり、対向して配設された一对の板状体 3 2 a , 3 2 b と、その一对の板状体 3 2 a , 3 2 b を互いに連結する複数の連結部材 3 2 c と、板状体 3 2 b に配設された嵌合穴 3 2 d とを備えている。各板状体 3 2 a , 3 2 b は複数の連結部材 3 2 c により連結されており、この複数の連結部材 3 2 c は計 4 箇所に配設されている。この各連結部材 3 2 c は、板状体 3 2 a の長手方向に略等間隔で配設された後述する複数の連結部材 3 3 に対応して配設されている。よって、取付部材 3 2 のうち、連結部材 3 3 が固着されている部分の厚みは大きく形成され、その強度が強化されている。従って、連結部材 3 3 を切断して封印部材 3 1 を除去する場合、取付部材 3 2 の板状体 3 2 a に損傷を与えることがない。また、取付部材 3 2 における一对の板状体 3 2 a , 3 2 b の間には所定幅の間隙 W 2 が形成されており、この一对の板状体 3 2 a , 3 2 b の間に形成された間隙 W 2 は、ボックス蓋体 4 2 の側壁 4 2 a の板厚より大きく形成されている。

【 0 0 4 9 】

図 5 に示すように、ボックス蓋体 4 2 の側壁 4 2 a には、取付部材 3 2 の各連結部材 3 2 c に対応した略矩形状の係合溝 4 2 b が略等間隔で計 4 箇所に形成されており、この各係合溝 4 2 b は、ボックス本体 4 1 に形成された各係合溝 4 1 b に対向して側壁 4 2 b に形成されている。この係合溝 4 2 b には、取付部材 3 2 の各連結部材 3 2 c をそれぞれ係

合させることができる。各係合溝 4 2 b に各連結部材 3 2 c を係合すると、ボックス蓋体 4 2 の側壁 4 2 a は、ユニット部材 3 0 の取付部材 3 2 における板状体 3 2 a , 3 2 b の間に挟み込まれ、図 2 に示すように、ユニット部材 3 0 がボックス蓋体 4 2 に取り付けられる。その結果、板状体 3 2 a , 3 2 b の間に挟み込まれた側壁 4 2 a 部分の剛性を向上させることができるとともに、ボックス蓋体 4 2 の側壁 4 2 a に取り付けられたユニット部材 3 0 を外れ難くすることができる。

【 0 0 5 0 】

また、取付部材 3 2 の長手方向の両端部分には、一对の取付孔 3 2 e が板状体 3 2 a , 3 2 b のそれぞれを貫通して穿設している（図 3 および図 4 参照）。ボックス蓋体 4 2 の側壁 4 2 a には、この取付部材 3 2 の一对の取付孔 3 2 e に対応して、一对の係合穴 4 2 c が穿設されている（図 5 参照）。よって、ユニット部材 3 0 の板状体 3 2 a , 3 2 b の間にボックス蓋体 4 2 の側壁 4 2 a を挟み込みつつ、取付部材 3 2 をボックス蓋体 4 2 の側壁 4 2 a に「かしめ」またはネジ止めにより固定することができる（図 2 参照）。

【 0 0 5 1 】

嵌合穴 3 2 d は、ユニット部材 2 0 の補強部材 2 2 d を嵌合しつつ、封印ユニット 1 が配設された基板ボックス 4 0 の強度を補強するためのものである。この嵌合穴 3 2 d は、ユニット部材 2 0 の補強部材 2 2 d が嵌合可能に穿設された上面視略矩形状の貫通穴であり（図 3 参照）、取付部材 3 2 の板状体 3 2 b における上部側面に突設されている（図 4 中右側）。この嵌合穴 3 2 d に補強部材 2 2 d を嵌合することにより、封印ユニット 1、及び、その封印ユニット 1 が配設された基板ボックス 4 0 の剛性を大きくすることができる。

【 0 0 5 2 】

図 3 に示すように、連結部材 3 3 は、各封印部材 3 1 と取付部材 3 2 とをそれぞれ連結するためのものである。この連結部材 3 3 は、取付部材 3 2 の板状体 3 2 a の一側面に略等間隔で計 4 個配設されており、各連結部材 3 3 には封印部材 3 1 がそれぞれ固着されている。よって、計 4 個の各封印部材 3 1 が略等間隔で隣接して取付部材 3 2 に連結され、ユニット部材 3 0 が一体に形成されている。また、封印部材 3 1 および取付部材 3 2 は連結部材 3 3 により連結されるので、封印部材 3 1 と取付部材 3 2 との間には、ニッパ等の工具の刃先が入り込むための間隔が形成される。よって、封印部材 3 1 を切断して除去する場合、ニッパ等の工具を用いて連結部材 3 3 を容易に切断することができる。

【 0 0 5 3 】

尚、各封印部材 3 1 の下面にナット 1 2 の円筒部 1 2 a の上面をそれぞれ固着して、各封印部材 3 1 と各ナット 1 2 とを一体に形成しても良い。

【 0 0 5 4 】

次に、上述した基板ボックス 4 0 に取り付けられた封印ユニット 1 の使用方法について説明する。まず、ユニット部材 2 0 の各封印部材 2 1 に形成された嵌合穴 2 1 b 内にストッパ部材 1 3 をそれぞれ挿入し、その上方からナット 1 2 を嵌合穴 2 1 a 内にそれぞれ内嵌させる。次に、このユニット部材 2 0 の各連結部材 2 2 c をボックス本体 4 1 の各係合溝 4 1 b に対応させて係合し、取付部材 2 2 の一对の板状体 2 2 a , 2 2 b の間にボックス本体 4 1 の側壁 4 1 a を挟み込むように取り付ける。その後、係合穴 2 2 e および取付孔 4 1 c を「かしめ」またはネジ止めにより固定する。また、同様に、ボックス蓋体 4 2 の各係合溝 4 2 b にユニット部材 3 0 の各連結部材 3 2 c を対応させて係合し、取付部材 3 2 の一对の板状体 3 2 a , 3 2 b の間にボックス蓋体 4 2 の側壁 4 2 a を挟み込んで、ユニット部材 3 0 をボックス蓋体 4 2 に取り付け、係合穴 3 2 e および取付孔 4 2 c を「かしめ」またはネジ止めにより固定する。

【 0 0 5 5 】

その後、ユニット部材 2 0 , 3 0 の各封印部材 2 1 , 3 1 を対向させて、ボックス本体 4 1 にボックス蓋体 4 2 を被せ、各封印部材 2 1 の上面と各封印部材 3 1 の下面とを当接する。そして、ユニット部材 3 0 の 1 つの通穴 3 1 b 内に封印ねじ 1 1 の先端部 1 1 c を挿入する。通穴 3 1 b へ挿入された封印ねじ 1 1 の係合溝 1 1 g にスクリュードライバ等

のねじ回し工具を係合し、封印ねじ 1 1 をナット 1 2 にねじ込む。封印ねじ 1 1 がねじ込まれると、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d はナット 1 2 のめねじ部 1 2 c に螺入され、その先端部 1 1 c は、ナット 1 2 の下方に配置されたストッパ部材 1 3 に到達し、ストッパ部材 1 3 の内孔 1 3 a は先端部 1 1 c に形成されたテーパ部 C により押し広げられ弾性変形する。

【 0 0 5 6 】

更に、封印ねじ 1 1 がねじ込まれると、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d とナット 1 2 のめねじ部 1 2 c との螺合が解除され、おねじ部 1 1 d および非おねじ部 1 1 e はそれぞれ保持穴 1 2 d およびめねじ部 1 2 c 内に挿設され、封印ねじ 1 1 の係止溝 1 1 f がストッパ部材 1 3 により係止され、封印ねじ 1 1 が封印部材 2 1 内にて抜き取り不可能な状態で保持される。一方、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b は、封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a 内に係合される。

【 0 0 5 7 】

その結果、封印ねじ 1 1 を反ねじ込み方向へ回転させた場合、封印ねじ 1 1 のおねじ部 1 1 d は、ナット 1 2 の保持穴 1 2 d 内にて空回し、封印ねじ 1 1 を封印部材 2 1 内から抜き取り不可能にすることができる。更に、封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b は、封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a に係合されているので、基板ボックス 4 0 のボックス本体 4 1 とボックス蓋体 4 2 とが開封不可能に連結され、基板ボックス 4 0 を確実に封印することができる（図 4 参照）。よって、基板ボックス 4 0 に被包された制御回路基板上的制御用 ROM 等を不適法に取り外して、パチンコ機 5 0 の遊技内容を変更する不正行為を防止することができる。また、封印部材 2 1 , 3 1 を破壊、切断等すれば基板ボックス 4 0 を開封することができるが、その場合には、基板ボックス 4 0 が開封された痕跡を確実に残すことができる。即ち、不正行為が行われたか否かを即座に発見することができる。

【 0 0 5 8 】

次に、この封印状態にある基板ボックス 4 0 から制御回路基板上的制御用 ROM 等を取り外して検査する方法について説明する。封印ねじ 1 1 の頭部 1 1 b は封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a に係合され、封印ねじ 1 1 の軸部 1 1 a は封印部材 2 1 内にて抜き取り不可能な状態で保持されているので、基板ボックス 4 0 内の制御回路基板を適法に検査する場合、ボックス本体 4 1 からボックス蓋体 4 2 を外して、基板ボックス 4 0 を開封することができない。かかる場合、封印ねじ 1 1 により封印されている封印部材 2 1 , 3 1 と取付部材 2 2 , 3 2 とを連結している連結部材 2 3 , 3 3 をニッパ等の工具を用いて切断するとともに、封印されている封印部材 2 1 と他の封印部材 2 1 とを連結する連結部材 2 4 を切断する。

【 0 0 5 9 】

このようにして、連結部材 2 3 , 2 4 , 3 3 を切断することにより、基板ボックス 4 0 の封印が解除され、ボックス本体 4 1 からボックス蓋体 4 2 を外すことができる。また、連結部材 2 4 が切断されると、連結部材 2 4 と一対の保持部材 2 5 により封印部材 2 1 間に保持されていた予備用封印ねじ 1 1 を取り外すことができる。そして、制御用 ROM 等の検査終了後、ボックス本体 4 1 にボックス蓋体 4 2 を被せて、取り外した予備用封印ねじ 1 1 により未使用の一対の封印部材 2 1 , 3 1 を連結して、基板ボックス 4 0 を再度封印する。

【 0 0 6 0 】

尚、本実施例では、封印部材 2 1 , 3 1 が各 4 個ずつ計 4 組設けられているので、最大 3 回まで基板ボックス 4 0 の封印を解除して開封することができる。また、止むを得ず全ての封印部材 2 1 , 3 1 を切断して排除した場合には、ユニット部材 2 0 , 3 0 をボックス本体 4 1 およびボックス蓋体 4 2 に固定する「かしめ」またはねじ止めを取り付け外し、新たなに封印ユニット 1 のユニット部材 2 0 , 3 0 をボックス本体 4 1 およびボックス蓋体 4 2 に取り付ければよい。

【 0 0 6 1 】

次に、図 6 および図 7 を参照して、第 2 実施例の封印ユニットについて説明する。第 2

実施例の封印ユニット１００は、前記した第１実施例の封印ユニット１の封印ねじ１１、ナット１２、ストッパ部材１３および封印部材２１の嵌合穴２１ｂの形状を変更したものである。以下、第１実施例と同一の部分には同一の番号を付してその説明は省略し、異なる部分のみを説明する。図６は封印ユニット１００を構成する各部材の分解斜視図であり、図７は基板ボックス４０を封印した状態における封印ユニット１００の部分断面図である。

【００６２】

図６に示すように、封印ユニット１００は、基板ボックス４０を封印するための封印ねじ１１１と、その封印ねじ１１１が螺入されるナット１１２と、封印ねじ１１１に係止するためのストッパ部材１１３と、ナット１１２およびストッパ部材１１３が配設されるとともにボックス本体４１に配設されるユニット部材１２０と、そのユニット部材１２０に対向してボックス蓋体４２に配設され封印ねじ１１１に係合されるユニット部材３０とを備えている。

【００６３】

封印ねじ１１１は、軸部１１ａと、頭部１１ｂとを備えており、封印ねじ１１の軸部１１ａには、先端部１１ｃと、おねじ部１１ｄと、非おねじ部１１ｅとが形成されている。この先端部１１ｃのうち係止溝１１ｆとおねじ部１１ｄとの間には、頭部１１ｂ側に形成された非おねじ部１１ｅと外径が略等しい非おねじ部１１１ｅが形成されている。

【００６４】

ナット１１２は、略円柱状に形成された円筒部１２ａと、封印ねじ１１１のおねじ部１１ｄに螺合可能なめねじ部１２ｃと、そのめねじ部１２ｃに連通して穿設された保持穴１２ｄとを備えている（図７参照）。このナット１１２は、後述する封印部材１２１の嵌合穴２１ａに内嵌されており、その下方には後述するストッパ部材１１３が配置されている。尚、ナット１１２は、第１実施例のナット１２と比較して、突部１２ｂを有しないものである。

【００６５】

ストッパ部材１１３は、バネ鋼材等の弾性材料で構成されており、その形状は側面視略Ｃ字形状であって上面視略矩形状に形成されている。このストッパ部材１１３の上面には、略円形の通穴１１３ａが穿設されており、その下方には一対の爪部１１３ｂが一体に形成されている。

【００６６】

ユニット部材１２０は、ナット１１２およびストッパ部材１１３が配置される複数の封印部材１２１と、取付部材２２と、各封印部材１２１と取付部材２２とを互いに連結するための連結部材２３と、各封印部材１２１のそれぞれを互いに連結する連結部材２４と、予備用の封印ねじ１１１を保持するために設けられた保持部材２５とを備えている。封印部材１２１は、略円柱状に形成されており、その一部には連結部材２３が固着され取付部材２２に連結されている。この封印部材１２１は略等間隔で取付部材２２に計４個連結されており、各封印部材１２１には複数の嵌合穴２１ａ，２１ｂ，２１ｃが連通してそれぞれ形成されている。嵌合穴１２１ｂはストッパ部材１１３を嵌合可能に上面視略矩形状に形成されており、その深さ、即ち、嵌合穴１２１ｂの上面から嵌合穴１２１ｂの底面までの距離は、ストッパ部材１１３の高さより大きくされている。よって、ナット１１２の下面をストッパ部材１１３の上面に当接することなく、嵌合穴１２１ｂ内にストッパ部材１１３を配置することができる。

【００６７】

図７に示すように、この封印ユニット１００を使用して基板ボックス４０を封印する場合、封印部材１２１の嵌合穴１２１ｂにストッパ部材１１３を配置し、その上方から嵌合穴２１ａにナット１１２を内嵌して、封印部材１２１内にストッパ部材１１３を埋設する。その後、ユニット部材３０の通穴３１ｂ内に封印ねじ１１１の先端部１１ｃを挿入する。そして、通穴３１ｂへ挿入された封印ねじ１１１の係合溝１１ｇにスクリュードライバ等のねじ回し工具に係合し、封印ねじ１１１のおねじ部１１ｄをナット１１２のめねじ部

１２ｃに螺合させて、封印ねじ１１１をナット１１２にねじ込む。

【００６８】

封印ねじ１１１がねじ込まれると、その先端部１１ｃは、ナット１１２の下方に配置されたストッパ部材１１３の通穴１１３ａに挿入され、その下方に形成された一对の爪部１１３ｂが封印ねじ１１１の先端部１１ｃに形成されたテーパ部Ｃにより押し広げられ弾性変形する。更に、封印ねじ１１１がねじ込まれると、封印ねじ１１１のおねじ部１１ｄとナット１１２のめねじ部１２ｃとの螺合が解除され、おねじ部１１ｄ及び非おねじ部１１ｅはそれぞれ保持穴１２ｄ及びめねじ部１２ｃ内に挿設される。また、同時に、封印ねじ１１１の係止溝１１ｆはストッパ部材１１３の一对の爪部１１３ｂにより係止され、非おねじ部１１１ｅがストッパ部材１１３の通穴１１３ａ内に挿設され、封印ねじ１１１が封印部材１２１内で抜き取り不可能な状態で保持される。一方、封印ねじ１１１の頭部１１ｂは、封印部材３１の係合穴３１ａ内に係合され、基板ボックス４０のボックス本体４１とボックス蓋体４２とが開封不可能に連結され、基板ボックス４０を確実に封印することができる。

【００６９】

次に、図８を参照して、第３実施例の封印ユニットについて説明する。第３実施例の封印ユニット２００は、前記した第１実施例の封印ユニット１の封印ねじ１１およびナット１２を変更したものである。以下、第１実施例と同一の部分には同一の番号を付してその説明は省略し、異なる部分のみを説明する。図８は基板ボックス４０を封印した状態における封印ユニット２００の部分断面図である。

【００７０】

図８に示すように、封印ユニット２００は、基板ボックス４０を封印するための封印ピン２１１と、その封印ピン２１１が挿入されるブッシュ２１２と、封印ピン１１１を係止するためのストッパ部材１３と、ブッシュ２１２およびストッパ部材１３が配設されるとともにボックス本体４１に配設されるユニット部材２０と、そのユニット部材２０に対向してボックス蓋体４２に配設され封印ピン２１１が係合されるユニット部材３０とを備えている。

【００７１】

封印ピン２１１は、ユニット部材２０、３０の封印部材２１、３１を連結するためのものであり、ステンレス鋼材等の金属材料から構成されている。封印ピン２１１は、後述するブッシュ２１２に嵌合される軸部２１１ａと、その軸部２１１ａの一端に一体形成されるとともに封印部材３１に係合される頭部２１１ｂとを備えている。封印ピン２１１の先端部１１ｃにはテーパ部Ｃと係止溝１１ｆとが形成されており、軸部２１１ａは後述するブッシュ２１２の嵌合穴２１２ｃに嵌合可能に形成されている。

【００７２】

ブッシュ２１２は、真鍮等の金属材料から構成されており、略円柱状に形成された円筒部１２ａと、その円筒部１２ａと比較して外径が小さく形成された突部１２ｂと、封印ピン２１１の軸部２１１ａが嵌合可能に穿設された上面視略円形状の嵌合穴２１２ｃとを備えている。

【００７３】

図８に示すように、この封印ユニット２００を使用して基板ボックス４０を封印する場合、封印部材２１の嵌合穴２１ｂにストッパ部材１３を配置し、その上方から嵌合穴２１ａにブッシュ２１２を内嵌して、封印部材２１内にストッパ部材１３を埋設する。その後、ユニット部材３０の通穴３１ｂ内に封印ピン２１１の先端部１１ｃを挿入する。通穴３１ｂへ挿入された封印ピン２１１の先端部１１ｃはブッシュ２１２の嵌合穴２１２ｃに嵌合される。嵌合穴２１２ｃに軸部２１１ａが嵌合された封印ピン２１１を更に押し込むと、その先端部１１ｃは、ブッシュ２１２の下方に配置されたストッパ部材１３の内孔１３ａに挿入される。ストッパ部材１３の内孔１３ａに封印ピン２１１の先端部１１ｃが挿入されると、ストッパ部材１３の内孔１３ａは先端部１１ｃに形成されたテーパ部Ｃにより押し広げられストッパ部材１３が弾性変形し、封印ピン２１１の係止溝１１ｆがストッパ

部材 1 3 により係止され、封印ピン 2 1 1 が封印部材 2 1 内にて抜き取り不可能な状態で保持される。一方、封印ピン 2 1 1 の頭部 2 1 1 b は、封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a 内に係合され、基板ボックス 4 0 のボックス本体 4 1 とボックス蓋体 4 2 とが開封不可能に連結され、基板ボックス 4 0 を確実に封印することができる。

【 0 0 7 4 】

次に、図 9 を参照して、第 4 実施例の封印ユニットについて説明する。第 4 実施例の封印ユニット 3 0 0 は、前記した第 3 実施例の封印ユニット 2 0 0 の封印ピン 2 1 1 を変更したものである。以下、第 3 実施例と同一の部分には同一の番号を付してその説明は省略し、異なる部分のみを説明する。図 9 は基板ボックス 4 0 を封印した状態における封印ユニット 3 0 0 の部分断面図である。

【 0 0 7 5 】

封印ピン 3 1 1 は、ユニット部材 2 0 , 3 0 の封印部材 2 1 , 3 1 を連結するためのものであり、ステンレス鋼材等の金属材料によって略円柱状に形成され、ブッシュ 2 1 2 に嵌合可能に形成されている。封印ピン 3 1 1 の両先端部 1 1 c , 1 1 c にはともに、テーパ部 C , C と、係止溝 1 1 f , 3 1 1 f とが形成されている。

【 0 0 7 6 】

この封印ユニット 3 0 0 を使用して基板ボックス 4 0 を封印する場合、封印部材 2 1 の嵌合穴 2 1 b にストッパ部材 1 3 を配置し、その上方から嵌合穴 2 1 a にブッシュ 2 1 2 を内嵌して、封印部材 2 1 内にストッパ部材 1 3 を埋設する。その後、ユニット部材 3 0 の通穴 3 1 b 内に封印ピン 3 1 1 の一方の先端部 1 1 c を挿入する。通穴 3 1 b へ挿入された封印ピン 3 1 1 の先端部 1 1 c はブッシュ 2 1 2 の嵌合穴 2 1 2 c に嵌合される。

【 0 0 7 7 】

嵌合穴 2 1 2 c に軸部 2 1 1 a が嵌合された封印ピン 3 1 1 を更に押し込むと、その先端部 1 1 c は、ブッシュ 2 1 2 の下方に配置されたストッパ部材 1 3 の内孔 1 3 a に挿入される。ストッパ部材 1 3 の内孔 1 3 a 封印ピン 3 1 1 の先端部 1 1 c が挿入されると、ストッパ部材 1 3 の内孔 1 3 a は先端部 1 1 c に形成されたテーパ部 C により押し広げられ弾性変形し、封印ピン 3 1 1 の係止溝 1 1 f がストッパ部材 1 3 により係止され、封印ピン 3 1 1 が封印部材 2 1 内にて抜き取り不可能な状態で保持される。

【 0 0 7 8 】

一方、封印ピン 3 1 1 の他方の先端部 1 1 c は、封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a 内に突出しており、この先端部 1 1 c に形成された係止溝 3 1 1 f にストッパ部材 1 3 と同種のストッパ部材 1 3 をはめ込む。よって、この他方の先端部 1 1 c が封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a 内に係合され、基板ボックス 4 0 のボックス本体 4 1 とボックス蓋体 4 2 とが開封不可能に連結され、基板ボックス 4 0 を確実に封印することができる。

【 0 0 7 9 】

次に、図 1 0 を参照して、第 5 実施例の封印ユニットについて説明する。第 5 実施例の封印ユニット 4 0 0 は、前記した第 3 実施例の封印ユニット 2 0 0 の封印部材 2 1 を変更したものである。以下、第 3 実施例と同一の部分には同一の番号を付して、その説明は省略し異なる部分のみを説明する。図 1 0 は基板ボックス 4 0 を封印した状態における封印ユニット 4 0 0 の部分断面図である。

【 0 0 8 0 】

封印ユニット 4 0 0 の封印部材 4 2 1 は、封印部材本体 4 2 1 a と、その封印部材本体 4 2 1 a の下方に接着剤層 4 2 1 c 介して固着される封印部材蓋体 4 2 1 b とを備えている。封印部材本体 4 2 1 a の中心部分には、封印ピン 2 1 1 の軸部 2 1 1 a が嵌合される上面視略円形状の嵌合穴 4 2 1 d が穿設されており、封印部材本体 4 2 1 a の下面には、嵌合穴 4 2 1 d に連通した凹部 4 2 1 e が凹設されている。この凹部 4 2 1 e にはストッパ部材 1 3 が配置されており、このストッパ部材 1 3 の内孔 1 3 a は封印ピン 2 1 1 の先端部 1 1 c に形成された係止溝 1 1 f を係止している。また、封印部材本体 4 2 1 a の下面には、封印部材蓋体 4 2 1 b が接着剤層 4 2 1 c により固着されている。封印部材蓋体 4 2 1 b は、封印部材本体 4 2 1 a の下面に嵌合可能に形成されており、この封印部材蓋

体 4 2 1 b の中央部分には嵌合穴 2 1 c が凹設されており、この嵌合穴 2 1 c には封印ピン 2 1 1 の先端部 1 1 c が嵌合されている。

【 0 0 8 1 】

この封印ユニット 4 0 0 を使用して基板ボックス 4 0 を封印する場合、ユニット部材 4 2 0 の封印部材本体 4 2 1 a の上面にユニット部材 3 0 の封印部材 3 1 を対向させて当接する。その後、通穴 3 2 b 内に封印ピン 2 1 1 の先端部 1 1 c を挿入し、封印部材本体 4 2 1 a の嵌合穴 4 2 1 d 内に封印ピン 2 1 1 の軸部 2 1 1 a を嵌合し、封印ピン 2 1 1 の先端部 1 1 c を封印部材本体 4 2 1 a の下面から突出させる。次に、この突出した封印ピン 2 1 1 の先端部 1 1 c に形成された係合溝 1 1 f にストッパ部材 1 3 をはめ込むとともに、封印ピン 2 1 1 の頭部 2 1 1 b を封印部材 3 1 の係合穴 3 1 a に係合して、封印部材 4 2 1 , 3 1 を互いに連結させる。

【 0 0 8 2 】

このように封印部材 4 2 1 , 3 1 を連結した後、封印部材本体 4 2 1 a の下面に接着剤を塗布して接着剤層 4 2 1 c を形成し、封印部材蓋体 4 2 1 b を封印部材本体 4 2 1 a に嵌合してストッパ部材 1 3 を封印部材 4 2 1 内に封印する。この結果、基板ボックス 4 0 のボックス本体 4 1 とボックス蓋体 4 2 とが開封不可能に連結され、基板ボックス 4 0 を確実に封印することができる。

【 0 0 8 3 】

以上、実施例に基づき本発明を説明したが、本発明は上記実施例に何ら限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の改良変形が可能であることは容易に推察できるものである。

【 0 0 8 4 】

例えば、第 1 および第 2 実施例では、封印ねじ 1 1 , 1 1 1 の頭部 1 1 b 上面には、封印ねじ 1 1 , 1 1 1 をねじ込み方向に回転させる場合、ねじ回し工具と係合可能となり、逆に封印ねじ 1 1 , 1 1 1 を反ねじ込み方向に回転させる場合には、ねじ回し工具を空回りさせる係合溝 1 1 g、いわゆるワンウェイ十字溝を凹設した。しかし、スクリュードライバ等のねじ回し工具を係合させる係合溝はこれに限られるものではなく、ねじ込み方向および反ねじ込み方向の双方に係合可能な十字溝を凹設しても良い。

【 0 0 8 5 】

また、本実施例では、基板ボックス 4 0 に封印ユニット 1 , 1 0 0 , 2 0 0 , 3 0 0 , 4 0 0 と基板ボックス 4 0 とを別部材として形成した。しかし、かかる封印方法はこれに限られるものではなく、基板ボックスのボックス本体およびボックス蓋体のそれぞれと封印ユニットの各ユニット部材とを一体に形成しても良い。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 8 6 】

【 図 1 】 本発明の一実施例である封印ユニットを有する基板ボックスの配設されたパチンコ機の裏面図である。

【 図 2 】 封印ユニットが配設された基板ボックスが開封された状態を示す斜視図である。

【 図 3 】 封印ユニットを構成する各部材の分解斜視図である。

【 図 4 】 基板ボックスを封印した状態における封印ユニットの部分断面図である。

【 図 5 】 基板ボックスの分解斜視図である。

【 図 6 】 第 2 実施例における封印ユニットを構成する各部材の分解斜視図である。

【 図 7 】 第 2 実施例における基板ボックスを封印した状態における封印ユニットの部分断面図である。

【 図 8 】 第 3 実施例における基板ボックスを封印した状態における封印ユニットの部分断面図である。

【 図 9 】 第 4 実施例における基板ボックスを封印した状態における封印ユニットの部分断面図である。

【 図 1 0 】 第 5 実施例における基板ボックスを封印した状態における封印ユニットの部分断面図である。

## 【符号の説明】

## 【0087】

<u>1 , 1 0 0 , 2 0 0 , 3 0 0 , 4 0 0</u>	<u>封印ユニット（封印手段）</u>
<u>1 1 , 1 1 1</u>	<u>封印ねじ（連結封印部材）</u>
<u>1 3 , 1 1 3</u>	<u>ストッパ部材</u>
<u>2 1 , 1 2 1 , 4 2 1</u>	<u>封印部材（第2封印部）</u>
<u>2 2</u>	<u>取付部材</u>
<u>2 2 a , 2 2 b</u>	<u>板状体（挟込み部）</u>
<u>3 1</u>	<u>封印部材（第1封印部）</u>
<u>4 0</u>	<u>基板ボックス</u>
<u>4 1</u>	<u>ボックス本体（ボックスベース）</u>
<u>4 1 a</u>	<u>側壁（被挟込み部）</u>
<u>4 2</u>	<u>ボックス蓋体（ボックスカバー）</u>
<u>5 0</u>	<u>パチンコ機（遊技機）</u>